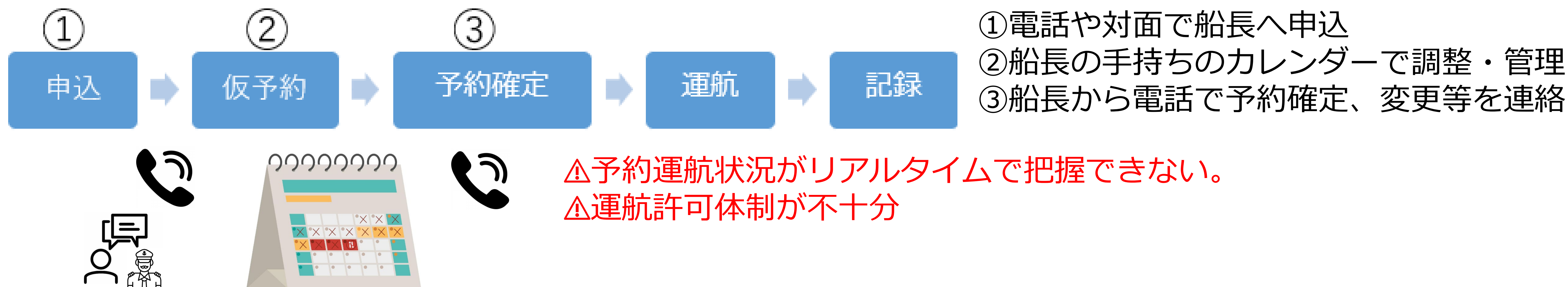


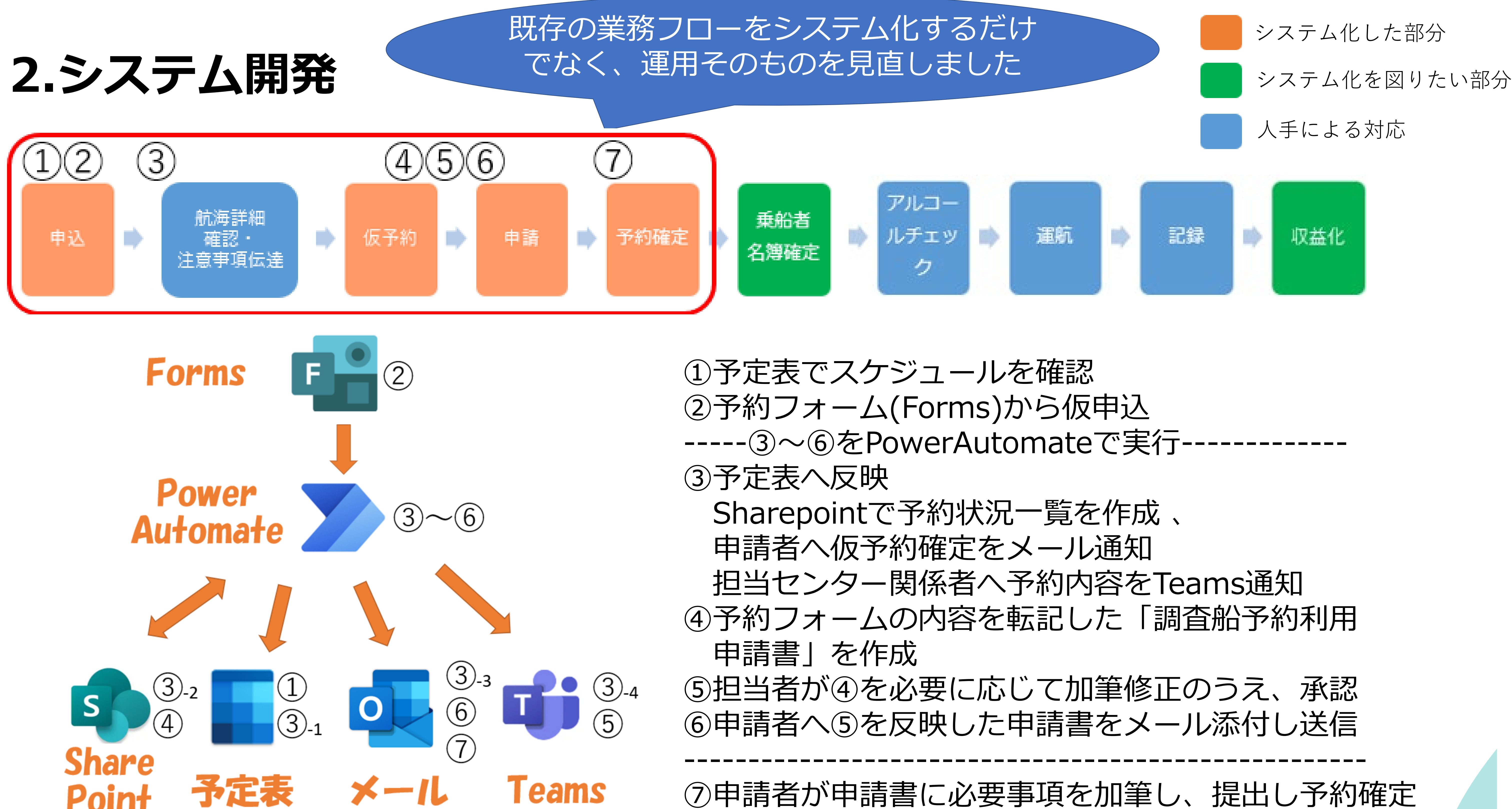
瀬戸内圏研究センターにおける調査船予約申請システムの内製開発

森岡希帆
香川大学学術部研究協力課

1.現状と課題



2.システム開発



3.成果・効果

全てがアナログ対応であった調査船予約にかかる業務フローの一部をシステム化し、予約状況等の可視化、申請書導入等の体制の整備に対応した

改善されたこと

- 【関係者全員】
- ・予約運航状況をリアルタイムで確認
- 【申込者】
- ・適時予約
- ・メール通知により、受付状況を把握
- 【受付側】
- ・申込内容を関係者で確認・共有
- ・申請業務の負担を軽減
- ・予約情報のデータベース化 → 今後進める収益化にも活用！

効果試算

(年間予約数 削減時間(/回) 年間削減時間
約100件 × 約3時間 = 約300時間

その他、数値に表れない利便性向上と波及効果
(運用を変更し、新規業務が追加されたが、時間は短縮できた)

早く！正確に！みんなが共有！それでも事務負担は増やさない！